

北上市総合計画 2021～2030 令和6年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和5年度）

基本方針	7.良好な住環境を支える適切な土地利用と基盤整備
基本施策	7-1.都市と地域の機能強化・ネットワーク戦略の推進
関連するプロジェクト	7.拠点形成・ネットワークプロジェクト

将来的な人口減少時代にあっても持続的に発展し、将来世代が安心して暮らすことができるよう、都市拠点及び地域拠点の形成に取り組み、都市と地域を結びより利便性の高い公共交通体系の充実を図ります。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
B

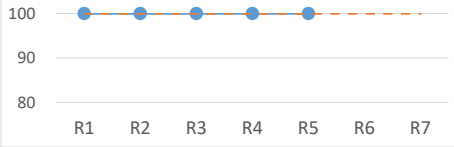
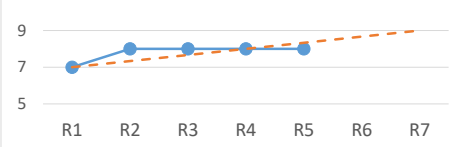
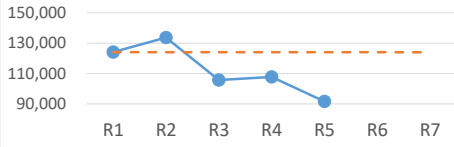
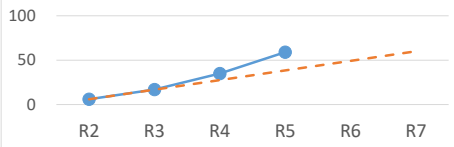
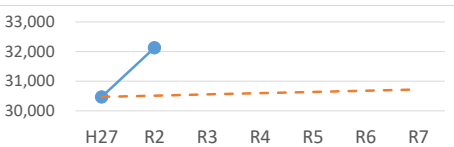
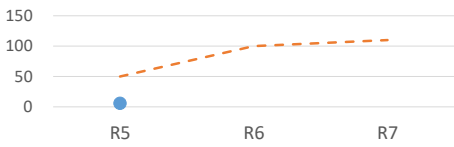
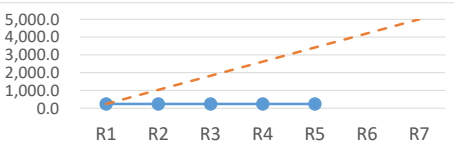
※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
15

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針		成果 指標	達成状況(対象:R5) (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)	達成状況 評 価	達 成 状 況 分 析 (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)		今後の方向性 (◇:R6に着手予定・着手済み ◆:R7以降の着手を検討)
								内部要因	外部要因	
1	都市 整備 部	●	まちづく りとい体 となった 交通施策	都市計画マスタープランや立地適正化計画と連携を図り、まちづくりと連動した公共交通施策を展開するとともに、「利用してみたい」新しい公共交通を創出する。また、交通インフラとして、拠点間(都市拠点と地域拠点)を結び公共交通(路線バスやおに丸号など)の充実を図る。	①	まちなか(都市拠点)と地域拠点を結び拠点間交通の運行地区の割合は100%を維持している。	A (A)	運行事業者へ運行費補助等の支援を行い、拠点間交通を維持・確保した。		◇拠点間交通を維持・確保するため運行事業者への補助等を継続する。 ◇公共交通の現状調査、分析を実施し、次期公共交通計画の策定につなげていく。 ◆利便性の向上、効率的な運行等を図るため、運行事業者との連携及び地域との協働により、次期地域公共交通計画の策定に合わせて、必要に応じて見直しを行う。
						推進方針に掲げている「利用してみたい」新しい公共交通の実施まで至っていない。		既存の公共交通(路線バスやおに丸号など)の現状調査、分析まで至っておらず、あるべき公共交通の方向性が見いだせていない。	運転手不足等が懸念される中、事業者等との連携により運行を確保できた。	
2	都市 整備 部	●	協働型地 域内交通 の構築	地域内交通を必要とする地域への新規路線の構築について地域住民と協働で推進するとともに、運行に対する支援を行う。	②	地域内交通の運行地域数は8地域であり、期待値どおり増加している。	A (A)	・運行主体である地域へ運行費補助等の支援を行い、地域内交通を維持・確保した。 ・地域における周知活動、利用促進などの取り組みにより、利用が増加している地域がある。 ・地域内交通(乗合タクシー及び過疎地有償運送など)の現状調査、分析までには至っていない。	運転手不足等が懸念される中、事業者等との連携により運行を確保できた。	◇地域内交通を維持・確保するため運行事業者への補助等を継続する。 ◆利便性の向上、効率的な運行等を図るため、地域、交通事業者と連携する。 ◇公共交通の現状調査、分析を実施し、次期公共交通計画の策定につなげていく。
3	都市 整備 部	●	幹線交通 の機能確 保	市町村間を跨ぐ路線バスや鉄道については、都市の骨格を形成するものであることから、今後も維持していくための施策(利用促進策や補助等)を実施する。	③	岩手県交通石鳥谷線の利用者数は91,623人(前年比16,167人減)であり、期待値を下回っている。	C (C)	利用者の減少に対応するため、国庫補助制度を活用し、岩手県交通石鳥谷線を維持・確保した。	少子高齢化の進行、コロナ禍の影響が長引き、コロナ禍前の利用水準への回復は困難である。	◇公共交通の現状調査、分析を実施し、次期公共交通計画の策定に向けて、岩手県交通石鳥谷線を維持・確保するため運行事業者への補助等を継続するほか、市独自の支援も検討していく。 ◇鉄道の利用促進について、JR北上線全線開通100周年事業として、小学生の乗車体験等を実施する。なお、将来利用のきっかけとしてもらうために当該世代への事業を今後も継続していく。 ◆利便性の向上、効率的な運行等を図るため、交通事業者と連携し、次期地域公共交通計画の策定に合わせて、必要に応じて見直しを行う。 ◆交通事業者と連携し、ICカード等機器の導入及びICカードの活用なども含め、より効果的な利用促進策を検討する。
						利用促進策について、当該目的に特化した事業の実施まで至っていない。		・既存の公共交通(広域路線バスなど)の現状調査、分析まで至っておらず、あるべき公共交通の方向性が見いだせていない。 ・現在、特定世代を対象とした利用助成はあるが、公共交通の利用者及び今後において利用可能性がある者のすべてに対して、利用促進が可能な事業の展開まで至っていない。 ・将来の利用世代を意識した、利用促進に関する事業展開が弱かった。	運転手不足等が懸念される中、事業者等との連携により運行を確保できた。	
4	都市 整備 部	●	地域拠点 の形成	「あじさい都市」きたかみを形成するために、他分野の計画及び施策の整合性を図り、まちづくりの方向性を合致させていくとともに、各地域の地域拠点形成の方針に基づき、具体的な施策や取組みを推進していく	④	人口減少地域内に住宅を取得した方で、補助金を交付した戸数は24戸(累計戸数59戸)であり、期待値を超えて推移している。	B (B)	・住宅取得に伴う補助金を交付し、地域拠点形成と人口減少の抑制に努めた。 ・令和3年度は人口減少地域の地域拠点内を対象としていたが、令和4年度からは人口減少地域内に住宅を取得した方への補助とし、要件を緩和している。		◇人口減少地域における地域拠点の形成と、人口減少を抑制するため、人口減少地域内に住宅を取得した方への補助を継続する。 ◇引き続き各地区の拠点形成に向けた取り組みを支援していくほか、地域計画の更新等にに合わせて、地域課題の検討の際に地域づくり課と連携し、今後のあり方を検討していく。
						各地区の拠点形成に向けた取り組みを推進した。		・専門家委員会を立ち上げ、地域拠点分科会は1回会議を開催した。 ・黒岩小学校の跡地を利用した地域拠点形成に向けて地域と話し合いを重ねた。		
5	都市 整備 部	●	総合的・ 計画的な 土地利用 の推進	適切な都市的土地利用を促進するため、低未利用地の有効活用を進めるとともに、大規模集客施設等については適切な位置への立地誘導に努めるなど、地域の実情を踏まえた土地利用を進める。 都市拠点の機能再構築に向け策定した未来ビジョンにより北上駅西口周辺の課題解決への取組みを推進する。	⑤	※令和5年度未調査 (国勢調査時期に国勢調査区単位で調査するものとなっているため)	B (B)			◇令和5年度に引き続き各事業を情報共有すると共に中心部全体の活性化について協議していく。 ◇令和5年度に引き続き国土交通省の都市再開発支援事業を活用し、再開発事業の推進に向けたコーディネートを実施していく。 ◇中心部の歩行空間の整備やソフト事業等のエリアマネジメントにより、賑わいの回復を目指すために関係者との検討を実施していく。 ◇令和6度から令和7年度にかけて北上駅前地区のグランドデザインを策定する。 ◆事業の進捗度により、実施企業を募集し、都市計画決定や本組合の設立等の工程に進む。 ◆令和6年度に決定予定の北上駅鍛冶町線の整備方針に基づき、令和7年度に社会実験を実施する。 ◆諏訪町地区は、令和7年度から優良建築物等整備事業を活用して、整備を開始する。
						・未来ビジョンにおいて「まちなかの背骨」と位置付けている北上駅鍛冶町線のウォークアブル化に向けた基礎検討を行った。 ・専門家委員会を3回、シンポジウム及び再生会議を2回開催した。また、市内中心部の整備方針を示した未来ビジョン(地区再生計画)を策定し、再開発等各事業の推進に向けて進めている。 ・北上駅前地区は整備方針が定まっていない。 ・未来ビジョンに沿ったエリアマネジメントについては市内事業者と共に「きたかみ朝市」を毎月開催し、地域のプレーヤーとの関係を構築した。		駅前地区については事業規模が大きく庁内の合意形成に至っていない。	・諏訪町地区及び本通り地区は準備組合が設立された。 ・サウンディング調査を行ったところ、本通り地区については面積が大きく事業が成立するか懸念が生じている。 ・建設費や人件費の高騰による影響も懸念される。 ・関係事業者等のエリアマネジメントに対する機運は高められたものの組織の設立には至っていない。	

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針		成果 指標	達成状況(対象：R5) (上段：指標に基づくもの 下段：指標以外のもの)	達成状況 評 価	達 成 状 況 分 析 (上段：指標に基づくもの 下段：指標以外のもの)		今後の方向性 (◇：R6に着手予定・着手済み ◆：R7以降の着手を検討)
								内部要因	外部要因	
6	健康 こども部	●	通院困難者への医療の提供支援	医療機関が無い地域の住民の通院負担の軽減のため、医療機関と協働でモバイルクリニック事業を推進する。	⑥	・移動診療車、オンライン診療を活用した「モバイルクリニック」の本格運用を1月25日に開始した。 モバイルクリニック事業の利用件数は6件(令和5年度期待値50件)※令和6年7月末日時点では累計20件	C (A)	複数の医療機関が予約するのは初めてであり、また機器操作・システム入力、特に患者の選定とオンライン診療に初めて対応する医療機関が多く、利用件数が伸びなかった。	・対象地区において、モバイルクリニック事業を知らない人が多く、また車両の納期が遅れに伴って事業開始が遅れたことで利用件数が期待値に届かなかった。 ・60-70代は対面診療を好む傾向があり、オンライン診療への抵抗感がある。その一方で、90歳前後の利用が多い。 ・法的、技術的な検討事項が多い。	◇見学会、ポスター掲示等の啓発活動を行う。 ◇対象地区の健診において、宣伝活動を行う。 ◇会議により、関係者との情報共有、問題点を協議する。 ◇医療機関へのサポートを強化し、利用率を上げる。 ◇薬の受取を改善し患者の負担を軽減する。 ◇電波状況の改善を行い医療機関の利便性を向上させる。
7	都市 整備部		通行空間の改善強化	自動車だけではなく、車椅子などを含めた歩行者、自転車が通行しやすい通行空間を整備、修繕を行う。	⑦	自転車通行帯設置距離は、期待値を下回っている。設計業務は進めているが、工事に着手できておらず、整備延長に変化はない。	C (c)	令和5年度に1路線の詳細設計を行った。指標が達成されることによる公共交通施策への貢献度は低い。	国庫補助金の交付額が要望額を大きく下回っている。	◇令和6年度は予算配分がなく工事予定なし。
8	企画部		大学等高等教育機関の設置	(基本施策2-2より再掲) 市内で生まれ育った子どもたちが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、大学等高等教育機関の設置に向けた研究を進め、市内での進学を選択肢を増やすとともに、卒業後は地域産業の担い手として活躍できる環境整備を図る。	シート2-2 指標①	令和4年度までの調査・研究を踏まえ、理工系人材の確保・育成を目的とする新しい大学の設置に向けて必要な事項を調査し、北上市における大学設置可否を判断するための基礎資料を適切にとりまとめることができた。	A (A)	県内の高校2年生10,000人・保護者・進路指導担当教員を対象にアンケート調査を実施し、ニーズを把握することができた。WEBアンケートを活用することで、高校生からは約4,000人の回答を得、統計的にも信頼のある分析に十分な回答数を得ることができた。		◇大学設置の意義や目指す大学の姿をより具体化するため、市立大学の設置に関する基本構想を策定する。 ◆基本構想策定の後、基本計画への着手を想定する。
						外部の有識者と大学設置に関する意見交換を行い、今年度の取り組みにつながる有意義な情報を集められた。		大学関係者のほか、企業関係や高校教員との意見交換により、様々な角度からの意見を集めることができた。		

凡例 ●実績値 — 期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明							
まちなか(都市拠点)と16地域拠点を結ぶ拠点間交通の運行		拠点間交通運行地区の割合								地域内交通が運行されている地域数		地域内交通の運行地域数								岩手県交通石鳥谷線の利用者数		年間利用者数(前年10月～当該年9月)							
																													
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
都市整備部	%	実績値	100	100	100	100	100			都市整備部	地域	実績値	7	8	8	8	8			都市整備部	人	実績値	124,098	133,697	105,755	107,790	91,623		
		期待値 ※R7は目標値	100	100	100	100	100	100				期待値 ※R7は目標値	7	7	8	8	8	9	9			期待値 ※R7は目標値	124,098	124,082	124,065	124,049	124,033	124,016	124,000
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明							
人口減少地域地域拠点形成住宅取得支援事業補助金を活用した新築戸数		人口減少地域内に住宅を取得した方で、補助金を交付した戸数。(R3以前は地域拠点内に限り補助金を交付)								DID(人口集中地区)人口		北上市内における人口密度が4000人/k㎡以上の基本単位区が互いに隣接して人口が5000人以上となる地区の人口								モバイルクリニック事業の利用件数		年間利用件数(4月～3月)の利用実績							
																													
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
都市整備部	戸	実績値	-	6	17	35	59			都市整備部	人	実績値	30,471	32,129						健康こども部	件	実績値	-	-	-	-	6		
		期待値 ※R7は目標値	-	6	17	28	38	49	60			期待値 ※R7は目標値	30,471	30,513	30,555	30,597	30,638	30,680	30,722			期待値 ※R7は目標値	-	-	-	-	50.00	100.00	110.00
		備 考										備 考	H27		未実施	未実施	未実施					備 考							
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明							
自転車通行帯設置距離		自転車通行帯の整備延長(累計)																											
																													
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
都市整備部	m	実績値	240	240	240	240	240					実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値	240	1,033	1,827	2,620	3,413	4,207	5,000			期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考	諏訪町商店街									備 考										備 考							
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							